

# 進捗状況報告シート

(2011年度・大学)

担当部局は  ☆印の箇所を記入してください。

## I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	国際学部
大項目	6 教育内容・方法・成果
中項目	6.3 教育方法
小項目	6.3.1 教育方法および学習指導は適切か。
要素	教育目標の達成に向けた授業形態（講義・演習・実験等）の採用 履修科目登録の上限設定、学習指導の充実 学生の主体的参加を促す授業方法 研究指導計画に基づく研究指導・学位論文作成指導（院） 実務的能力の向上を目指した教育方法と学習指導（専院）
小項目	6.3.2 シラバスに基づいて授業が展開されているか。
要素	シラバスの作成と内容の充実 授業内容・方法とシラバスとの整合性
小項目	6.3.3 成績評価と単位認定は適切に行われているか。
要素	厳格な成績評価（評価方法・評価基準の明示） 単位制度の趣旨に基づく単位認定の適切性 既修得単位認定の適切性
小項目	6.3.4 教育成果について定期的な検証を行い、その結果を教育課程や教育内容・方法の改善に結びつけているか。
要素	授業の内容および方法の改善を図るための組織的研修・研究の実施

## II. 自己点検・評価(2010.5.1～2011.4.30の進捗状況報告)

### 《目標・指標》

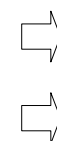
本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の評価を行っている。進捗評価はA～Dの4段階とし自ら評価した。A～D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。  
 B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。  
 C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。  
 D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2010年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価			
		2010	2011	2012	2013
1. 1年次に履修する国際基礎科目の基礎演習科目「基礎演習A」、「基礎演習B」、「Basic Seminar A」、「Basic Seminar B」は、原則として国際専門科目担当の専任教員全員が担当し、1クラス当たりの人数を、10～20人とする。	→ 1. 指標：基礎演習科目「基礎演習A」、「基礎演習B」、「Basic Seminar A」、「Basic Seminar B」の1クラス当たりの平均人数の超過率  評価基準：1.0以下…評価A、1.01-1.20…評価B、1.21-1.40…評価C、1.41以上…評価D	A			
2. 3年次、4年次の国際専門科目の研究演習科目（「研究演習I」、「研究演習II」、「Research Seminar I」、「Research Seminar II」）も、原則として国際専門科目担当の専任教員が担当し、1クラスあたりの人数は、10～20人とする。	→ 2. 指標：「研究演習I」・「Research Seminar I」、「研究演習II」・「Research Seminar II」の1クラス当たりの平均人数の超過率  評価基準：1.0以下…評価A、1.01-1.20…評価B、1.21-1.40…評価C、1.41以上…評価D (2013年度の達成を目指す)	D			
3. 毎学年度の始めに、全科目のシラバスを学生にWEBにて提示する。	→ 3. 指標：全科目数に対するシラバスの掲載率  評価基準：95%以上…評価A、90%以上…評価B、85%以上…評価C、85%未満…評価D (2013年度の達成を目指す)	A			
4. 国際学部カリキュラム委員会を設置し、毎年度、成績評価が（原則に従って）厳格に行われているかを検証する。	→ 4. 指標：当該年度における、カリキュラム委員会での検証の有無  評価基準：実施した…評価A、実施しなかった…評価D	D			

☆

2011年度以降に設定した「目標」		左記目標の「指標」		2010	2011	2012	2013
	→						
	→						



2010	2011	2012	2013

《現状の説明》 ※ 全小項目について記述が必要

小項目6.3.1	<p>6.3.1 教育方法および学習指導は適切か。</p> <p>(説明)</p> <p>1. 学生の主体的参加を促す授業として、1年次に履修する国際基礎科目の基礎演習科目「基礎演習A」、「基礎演習B」、「Basic Seminar A」、「Basic Seminar B」を開講し、原則として国際専門科目担当の専任教員全員が担当した。26クラスを開講し、1クラス当たりの目標人数を10~20人とし、2010年度は約9人だった。</p> <p>2. 学生の主体的参加を促す授業として、3年次、4年次の国際専門科目の研究演習科目（「研究演習Ⅰ」、「研究演習Ⅱ」、「Research SeminarⅠ」、「Research SeminarⅡ」）を開講し、原則として国際専門科目担当の専任教員が担当した。「研究演習Ⅰ」と「Research SeminarⅠ」合わせて27クラス、「研究演習Ⅱ」と「Research SeminarⅡ」合わせて27クラスを2012年度から開講し、1クラスあたりの目標人数を10~20人とした。</p> <p>3. 1年次終了時点をめどに、各学生に以後の学習計画を明確にすることを求めた。そのため、教員による学習アドバイザー制度を導入した。「基礎演習A」、「基礎演習B」、「Basic Seminar A」、「Basic Seminar B」の担当教員が、各学生の進みたい進路を踏まえ、各学生との相談を通じて、2年次以降の適切なコース科目の履修について指導した。</p>
小項目6.3.2	<p>6.3.2 シラバスに基づいて授業が展開されているか。</p> <p>(説明)</p> <p>学年度の始めに、次の項目を盛り込んだ全科目のシラバスを学生にWEBにて提示した。</p> <p>①科目の目的と概要 ②授業方法、各回の授業内容（テーマ・ねらい、授業内容の概略等） ③成績評価方法・基準 ④準備学習等についての具体的な指示及び他の科目との関連 ⑤教科書・参考文献</p>
小項目6.3.3	<p>6.3.3 成績評価と単位認定は適切に行われているか。</p> <p>(説明)</p> <p>成績評価に際して次のような原則を設けた。</p> <p>①シラバスで成績評価の基準を明示する。 ②各科目の成績評価を厳密に行い、各科目ともシラバスに達成目標を設定し、目標に到達していないものは不合格とする絶対評価を行う。 ③定期試験のみで成績評価をしない。課題への対応、小テスト、授業への取り組みといったことを含めて総合的な評価を行う。 ④GPA（Grade Point Average）制度を導入する。</p>
小項目6.3.4	<p>6.3.4 教育成果について定期的な検証を行い、その結果を教育課程や教育内容・方法の改善に結びつけているか。</p> <p>(検証の有無) いずれかにチェックしてください。 →→→→→→→→→→ <input checked="" type="radio"/> 検証している <input type="radio"/> 検証していない</p> <p>(説明)</p> <p>カリキュラム委員会を5回開催し、定期的に教育課程について改善を行った。しかし、成績評価が厳格に行われているかの検証は行われなかった。</p>
その他	

《評価指標データ》

- 履修者数規模別の授業科目数（少人数・中人数・大人数）
- 少人数授業の授業形態の調査
- 規模別講義室・演習室使用状況
- マルチメディア教室の稼働率
- 遠隔授業を活用した授業の比率
- 各年次セメスターごとの履修単位数制限の状況【基本的な指標データ】
- 履修者別開講科目数・1科目当たりの履修者数
- 学生の授業評価におけるシラバスの有効性に関する質問への肯定的な回答比率（大学、学部別、授業形態別）
- 成績評価の分布が適正な科目（平均点が70-75点）の比率
- GPA値（全学、学部別、男女別など）
- 定期試験の問題の適切性を検討する会議・委員会の有無と開催頻度
- オープン授業（授業公開）の全授業における割合
- 学生の授業評価の実施率（全学、学部別）
- 学生の授業評価における当該授業への満足度に関する質問への肯定的な回答比率（大学、学部別、授業形態別）
- 在学生のうち、授業をまじめに評価したと思う学生の比率
- 在学生のうち、学生による授業評価アンケートの実施が授業を変えるのに役立っていると思う学生の比率
- 大学院生の論文件数（査読制の雑誌と学内紀要等に分ける）
- 日本学術振興会特別研究員応募者の有資格者に占める割合
- 一括申請による教職免許状取得件数および取得者実数【基本的な指標データ】
- 在学生のうち、学生による授業評価アンケートの実施が授業を変えるのに役立っていると思う学生の比率

☆ 追加データがあれば追加してください。

◎効果が上がっている事項 ※目標の進捗評価が「A」の場合は必ず記述してください。

《点検・評価(1)》効果が上がっている事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

小項目6.3.1	1. 基礎演習科目「基礎演習A」、「基礎演習B」、「Basic Seminar A」、「Basic Seminar B」は国際専門科目担当の専任教員が担当した。26クラスを開講し、1クラス当たりの人数は、約9人だった。 2. 3年次、4年次の国際専門科目の研究演習科目（「研究演習I」、「研究演習II」、「Research Seminar I」、「Research Seminar II」）は開設3年目の2012年度から開講する。 3. 教員による学習アドバイザー制度を導入し、「基礎演習A」、「基礎演習B」、「Basic Seminar A」、「Basic Seminar B」の担当教員が、各学生の進みたい進路を踏まえ、各学生との相談を通じて、2年次以降の適切なコース科目の履修について指導した。
☆ 小項目6.3.2	学年度の始めに、上記①～⑤の項目を盛り込んだ全科目のシラバスを学生にWEBにて提示した。
小項目6.3.3	
小項目6.3.4	
その他	

【次年度に向けた方策(1)】伸長させるための方策 注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

小項目6.3.1	2年生は演習科目がないため、基礎演習科目担当者が学習アドバイザーとなり、学生を指導した。
小項目6.3.2	引き続き、全科目のシラバスをWEBに掲載する。
☆ 小項目6.3.3	
小項目6.3.4	
その他	

## ◎改善すべき事項 ※目標の進捗評価が「D」の場合は必ず記述してください。

【点検・評価 (2)】改善すべき事項		注) 出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。
小項目6.3.1		
小項目6.3.2		
小項目6.3.3		成績評価に関してカリキュラム委員会あるいは学部長室委員会にて検討する。
★ 小項目6.3.4		カリキュラム委員会を開催し、教務上の課題について適宜改善を行った。特に、留学に関連する単位・成績評価・科目履修、外国人留学生の留学、留学中の研究演習の取扱い、研究演習の選択方法・時期、9月入学制度、聴講・科目等履修生の履修可能科目、長期留学の単位認定方法等の課題について検討した。このことに合わせ、成績評価が厳格に行われているかの検証を行う。
その他		

↓

《次年度に向けた方策(2)》改善方策		注) 出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。
小項目6.3.1		
小項目6.3.2		
★ 小項目6.3.3		科目別成績統計表を作成し、科目ごとの合格者平均点と、秀優良可毎の分布を2011年度春学期成績から学部掲示板に公表する。
小項目6.3.4		引き続き、カリキュラム委員会を開催し、教務上の課題について改善するとともに、成績評価が厳格に行われているかの検証を行う。
その他		

## ◎自由記述

【点検・評価】&【次年度に向けた方策】	
★ その他 (自由記述)	

## III. 学内第三者評価

## &lt;評価専門委員会の評価&gt;

## 【学外委員】

○大項目6全体を通じて言えることですが、きめ細かな点検評価がなされていて、意欲的な姿勢は高く評価できます。  
○小項目6.3.1の「現状の説明」で、3年次と4年次の学期あたりの履修登録単位数の上限が28とされていますが、単位制度の趣旨に照らして改善が望まれます。

## 【学内委員】

○教育方法に関して、演習科目でのクラススケールの管理など明確な基準を設けることで、より明確な目標達成への進捗管理が目指されています。

○3、4年次の年間の単位数上限が50単位未満で設定されていません。

○「3、4年次の国際専門科目の研究演習科目も、原則として国際専門科目担当の専任教員が担当し、1クラスあたりの人数は、10～20人とする。」ことの評価がDですが、現状の説明を見る限りAだと思われます。Dと評価した理由は年次進行により、当該年次になっていないためなのか。その辺りの説明が必要だと思われます。

○教育方法について、種々方策が講じられていることが伺えます。

○成績評価の厳格性は、すべての基本になりますから、早急な検証が望まれます。

○大学基準協会は、小項目6.3.1については下記のとおり基盤評価と達成度評価を示しています。そして、達成度評価においては、方針と、授業形態等の教育方法の実態との整合性、学習指導の充実等、学生の学習成果の修得を促進する取り組み、シラバスを通じて示した授業計画、成績評価方法・基準等の適切な履行、が説明・証明から明らかであるかに留意するとしています。

## 【大学基準協会の、評価に際し留意すべき事項】

## ○小項目6.3.1

基盤評価：「当該学部・研究科の教育目標を達成するために必要となる授業の形態を明らかにしていること」「【学士】単位の実質化を図るため、1年間の履修科目登録の上限を50単位未満に設定していること。これに相当しない場合、単位の実質化を図る相応の措置（厳格な成績評価など）が併せてとられていること」「【修士・博士】研究指導計画に基づく研究指導、学位論文作成指導を行っていること」

## ○小項目6.3.2&amp;6.3.3

基盤評価：「授業の目的、到達目標、授業内容・方法、1年間の授業計画、成績評価方法・基準等を明らかにしたシラバスを、統一した書式を用いて作成し、かつ、学生があらかじめこれを知ることができる状態にしていること」「授業科目の内容、形態等を考慮し、単位制度の趣旨に沿って単位を設定していること」「既修得単位の認定を、大学設置基準等に定められた基準に基づいて、適切な学内基準を設けて実施していること」

## ○小項目6.3.4

基盤評価：「教育内容・方法等の改善を図ることを目的とした、組織的な研修・研究の機会を設けていること」

達成度評価：「教育内容・方法等の改善を図ることを目的とした研修・研究が、定期的実施されるものであり、また、これを踏まえた改善プロセスを明らかにしているなど、教育の質の維持・向上に恒常的かつ適切に取り組んでいる」

## ○小項目6.3.1～6.3.4

達成度評価：「当該学部・研究科の教育課程の編成・実施方針に従い、学生に期待する学習成果の修得を促進する教育方法を採用している。」（評価に当たっては、当該大学の説明・証明から、下記のことが明らかであるかに留意する。）

- ・方針と、授業形態等の教育方法の実態との整合性
- ・学習指導の充実等、学生の学習成果の修得を促進する取り組み
- ・シラバスを通じて示した授業計画、成績評価方法・基準等の適切な履行

#### IV. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

- 3、4年次の年間の単位数上限が50単位未満で設定していないのは、原則として留学に行くことを必修としているため、留学以外の期間に124単位を履修しなければならないので、そのことを考慮して設定している。このことは設置届出書の設置趣旨にも記載している。
- 「3、4年次の国際専門科目の研究演習科目も、原則として国際専門科目担当の専任教員が担当し、1クラスあたりの人数は、10～20人とする。」をDと評価した理由は年次進行により、当該年次になっていないためなので、次年度報告ではその点に留意して記載する。
- ★○6.3.1～4については次年度報告にて、大学基準協会による基盤評価の他、「教育課程の編成・実施方針に従い、学生に期待する学習効果の修得を促進する教育方法を採用している」という達成度評価を行い、評価に当っては下記のことを明らかにする。
- ・方針と授業形態等の教育方法の実態との整合性
  - ・学習指導の充実等、学生の学習成果の修得を促進する取り組み
  - ・シラバスを通じて示した授業計画、成績評価方法・基準等の適切な履行